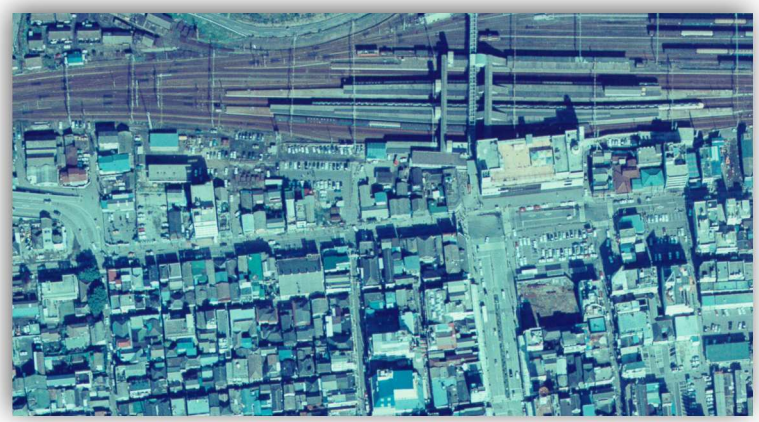
令和５年度 後期企画展

いわき駅前 今昔

～空中写真でみる街並み～

いわき駅周辺（平成 23 年 10 月 26 日　国土地理院撮影）



平駅(現いわき駅)周辺（昭和 50 年 11 月 12 日　国土地理院撮影）

もくじ

1. 鉄道の開通 ・・・・・・・・・・1p
2. 都会化する平町 ・・・・・・・・・・・2p
3. 戦争、空襲 ・・・・・・・・・・・3p
4. 復興、ネオンアーチの華やぎ ・・3p
5. 近代化進む商店街 ・・・・・・・・・・・5p
6. 東京行きの高速バス～・・・・・・・・7p
7. バブル景気の影響 ・・・・・・・・・・・7p
8. 平安橋から、南北自由通路へ・10p
9. 賑う駅前周辺・・・・・・・・・・・・・・・12p
年 表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13p
参考資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・14p

いわき市立いわき総合図書館
いわき市平字田町 120 ラトブ４・５階
TEL 0246-22-5552
http://library.city.iwaki.fukushima.jp

再開発が進み、現在、大きく変貌を遂げているいわき駅周辺。

令和５年(2023)年１月に、いわき駅に直結の商業施設とホテルがオープンし、西側の並木通り地区ではマンションや商業施設の建設が進んでいます。

時代とともに変化し続けてきたいわき駅南口周辺を、当館所蔵の空中写真などで比較し、当時の風景や人々の様子などをたどります。

1　鉄道の開通

明治 30(1897)年～大正元(1912)年

明治時代に開通した鉄道は、いわきの産業・経済を中心に大きな影響をもたらしました。

明治 30(1897)年２月 25 日に、水戸―平が日本鐵道磐城線(現・JR 常磐線)として開通し、これによりいわきは東京や横浜などの大消費地と直結しました。いわき地方には、石炭採掘のために大資本が相次いで投入され、鉄道開通後は、綴(現・内郷)、湯本、平などの各駅からは石炭を積んだ貨車が盛んに運ばれ、常磐炭田からの出炭量が飛躍的に増加していきました。石炭産業は、いわき地方の経済活性化に大きく寄与したのです。

当初、平(現・いわき)駅はまだ磐越東線が開通していなかったこともあり、旅客駅というよりは、近隣の好間、赤井、小川などの炭鉱から産出される石炭の積み出し駅としての色彩が濃いものでした。

平駅の駅舎は、市街地の中心が駅南方の本町通りであったことから、南向きに開設されました。鉄道開通により人と物の流れは盛んになり、旅館、運送会社、食堂などの商業・サービス業が成立し、駅前周辺は活気に満ちていきました。

平町本町通り
『平町絵葉書』（佐々木商店 大正時代）

2　都会化する平町

大正元(1912)年～大正 15(1926)年

平駅および駅前
国産奨励勧業博覧会の歓迎塔が建つ
『磐城平』 絵はがき(清光堂書店 大正 14(1925)年)

大正時代中期に発生した未曾有の好景気を挟んで、いわき地方は炭鉱や製鉄業、製糸業などを中心に大きな発展を遂げていきました。

鉄道は、中通りと浜通りを結ぶ平郡線(全通して磐越東線と改称)が大正 6(1917)年に開通し、平町は両地域の物資や産業の流通拠点として躍進しました。

平町は急速に消費都市としての側面が濃くなり、これに比例して駅の乗降客の扱いが年々増加し、大正時代半ばには、県下一の乗降客で賑わうようになりました。

大正 10(1921)年、乗降客数が増え続けたため、駅舎やホーム、待合室や跨線橋の改築が行われ、駅周辺は都市化が進んでいきました。平駅は手狭になり、新たな駅舎が望まれるようになっていきました。

この頃は、ほとんどの人が着物で、洋服が少しずつ普及していきました。本町通りに最初の洋品店が開店すると、それまでの小間物商も洋品を取り扱うようになり、急速に売り上げを伸ばしました。呉服商、荒物、薬舗、酒・醸造販売ほか数々の業種が本町通りに集まり、買い出しで賑わう町の様子は新聞で報じられるほどでした。

大正時代末期の駅前は四階建ての住吉屋支店、三階建ての丸一屋のほか、飲食店が並び、また駅公園も設置されました。

一町目～五町目の本町通りには、相次いで銀行が進出し、平駅に近い二町目～四町目を中心に、商業や娯楽などが賑わっていきました。都会になった街は人々のあこがれの存在となり、本町通り、特に二町目・三町目の絵はがきが何種類も発行されました。

平本町通り
『磐城平』絵はがき(清光堂書店 大正 14(1925)年)

ステーション前通り　平駅前のにぎわい
『平名所』絵はがき（八巻写真部 大正 14(1925)年)

3　戦争、空襲

昭和元(1926)年～昭和 20(1945)年

常磐線平駅
『磐城』絵はがき(佐々木商店 昭和初期)

昭和 4(1929)年 8 月 1 日、2 代目となる平駅新駅舎が改修落成しました。

昭和 7(1932)年 4 月 1 日　平町で昭和産業大博覧会が開催されました。昭和 12(1937)年 6 月にはいわき地方初の市となる「平市」が誕生しました。

この頃、市街の水路は暗渠化され、道路はアスファルトで舗装され、街の様子は大きく変わっていきました。

昭和16(1941)年12月、日本は第二次世界大戦に突入し、戦争の影響で鉄道輸送は貨物輸送が中心となりました。エネルギーとなる石油の輸入が途絶え、代わりの資源となる石炭が重要視され、軍需品として盛んに採掘されました。

戦時色は次第に濃くなり、昭和17(1942)年からは、日本国内はアメリカからの空襲を受け、戦況は苛烈を極めていきました。いわき地方では約30回にわたり爆撃を受けました。このうち昭和20(1945)年3月と7月には、合計3回にわたり平市街が空爆を受け、市街地にあった家の3分の1が焼かれ、犠牲者を伴う甚大な被害となりました。

4　復興、ネオンアーチの華やぎ

昭和 20(1945)年～昭和 30(1955)年

昭和20(1945)年8月、日本は連合国軍が戦後のあり方を示した「ポツダム宣言」を受諾し、同年9月に各国と無条件降伏文書に調印し、第二次世界大戦は終結しました。

戦争被害を受けた平市は、復興に向けて平市街の戦災復興都市計画から動き出しました。戦災復興土地区画整理事業のなかでも、新しい国道6号(現 国道399号・いわき-上三坂-小野線)、平駅から南へ一直線に進む道路の整備は、現在の市街地の基礎となる重要なものとなりました。この駅前通り(一部現・国道399号)は、愛称が「30メートル道路」「平大通り」「いわきサンパルク」と引き継がれていきました。開通当初は国道6号と駅前通りの交差点にはロータリー(現在のラウンドアバウトと似た形態)が設置され、その中央にはキューピッド像の噴水がありました。

昭和 28(1953)年に平市は、日本国有鉄道（現・JR）の協力を得て、駅構内をまたぐ人道の陸橋を設置しました。この橋は市民からの公募で「平安橋」と名づけられました。その

後、駅前の歩道にアーケードが整備され、車道上には大ネオンアーチが建てられるなど、昼夜ともに平の華やかさが増しました。

戦後復興が進み経済が活性化するなかで、日本国有鉄道（現・JR）は、老朽化していた駅舎を地元と共同で改築する計画を進めますが、改築に際しては、地元からの資金を得て、駅舎内に商業施設を設け、民衆駅スタイルを持ち込むことにしました。

平駅前 30 米通
『平市絵葉書』絵はがき(平市役所 昭和 20 年代)

平駅周辺（昭和 41(1966)年 10 月 20 日 国土地理院撮影）

5　近代化進む商店街

昭和 30(1955)年～昭和 50(1975)年

平(現･いわき)駅駅前通り･七十七銀行ビルから駅方面、西側市街を見る
（昭和 41(1966)年　いわき市所蔵）

昭和 30 年代に入ると、平市街の各商店は改増築を図るとともに、木造から鉄筋コンクリートへの転換を進め、商店街の近代化を進めました。こうした中、高層商業ビルも建設されました。銀座通りに地下 1 階・地上 5 階のビル、また一町目に４階建てのビルが完成し、高度経済成長期の昭和 30 年代から 40 年代にかけては多くの商業ビルが立ち並びました。

鉄道利用者の要望から、昭和 32(1957)年 4 月 1 日には、平駅の平安橋口改札が開始されました。駅前には乗合バスや車が増え、駅前拡張工事の必要性に迫られ、かねてから計画されていた駅舎改築とセットで進められるようになりました。

昭和 36(1961)年 8 月に「平駅前土地区画整理事業」が都市計画決定しましたが、利害関係が複雑に絡み合い、反対運動もあり、円滑に進めることには困難が伴いました。

昭和 41(1966)年 10 月 1 日、14 市町村が大同合併して、いわき市が誕生しました。

この時代は、移動手段として車が生活に浸透するモータリゼーションが進行し、駅前広場が車や乗合バスであふれる状況となっていきます。民衆駅建設、駅前広場整備、大型商業施設誘致・建設の三つが重要課題として挙げられるようになりました。昭和 45(1970)年 1 月には、規模を拡大した「平民衆駅建設促進会議」が設立されました。

民衆駅となる平駅ビル(商業施設の愛称「ヤンヤン」)の開業は昭和 48(1973)年、昭和 49(1974)年には駅前広場の拡張が完成し、都市形態の充実が進んでいきました。

一方、電化工事は平駅まで昭和 38(1963)年に完成し、無煙化、つまり蒸気機関車から電気機関車への移行が進んでいきました。この過程で、最大 27 両を格納できる扇形の平機関庫は、昭和 45(1970)年に廃止されました。

駅ビル ヤンヤン

名前の由来

「ヤング」の語感から若さを前面に出し、それを二度繰り返した「ヤングヤング」の縮小形「ヤンヤン」と名づけられました。
昭和 62(1987)年にリニューアルし、ロゴを「ヤン･ヤン」から「yan―yan」に変更しました。

平(現･いわき)駅駅ビル(ヤンヤン)全景
（昭和 57(1982)年 9 月　いわき市撮影）

平(現･いわき)駅駅前広場と正面商店を駅舎 2 階から見る
（昭和 47(1972)年 11 月頃　いわき市撮影）

銀座通り沿いに本町通り方向を見る
（昭和 49(1974)年 6 月　いわき市撮影）

いわき駅周辺（昭和 50(1975)年 11 月 12 日　国土地理院撮影）

6　東京行きの高速バス

昭和 50(1975)年～昭和 64(1989)年

レンガ通りの賑わい
(昭和 56(1981)年 4 月　いわき市撮影)

平市街では、昭和 56(1981)年 4 月にレンガ通りが開通し、昭和 59(1984)年 7 月には平大町地下道が開通しました。

駅前大通りでは、昭和 61（1986）年に電線類地中埋没化(キャブシステム)に伴い歩道を拡幅、ケヤキを植栽し、グリーンベルトとアーケードが撤去されました。歩道は彫刻やデザイン時計塔を配置し、ゆったりとした空間が演出されました。

昭和 62(1987)年 7 月には平駅北側に鉄北駐車場が開場しました。

昭和 63(1988)年 3 月、待望の常磐自動車道の日立北 IC－いわき中央 IC（51.2km）が開通しました。同年 11 月には平―東京の高速バスの運行が開始されました。高速道路の開通は、工業や観光、交流人口の拡大など、大きな影響をもたらしました。

平(現･いわき)駅駅前通り
･じゃんがら念仏踊りからくり時計お披露目
(平成 4(1992)年 4 月　いわき市撮影)

7　バブル景気の影響

平成元(1989)年～平成 11(1999)年

平成 3(1991)年 6 月には、南レンガ通りが開通し、街路の電線類地中化も進みました。

この頃、商業面では、流通・物流の革命や車社会の定着による商業の郊外化など、これまでの環境が大きく変化していきますが、平成 3(1991)年から始まる“バブル景気”崩壊により、日本は長い不況期に入ります。バブル期に計画された郊外への公共施設(21 世紀の森構想など)の移転も見直しが迫られ、市街地に“回帰”していきました。

こうした中、駅前再開発事業には、中心市街地の活性化の役割も求められるようになりました。駅前広場の拡張やそれにともなう駅の橋上化、公共駐車場の配置、再開発ビルへの公共施設の導入など、再開発に必要なメニューの変化に対応しながらの検討が進められていきました。

「平駅」から「いわき駅」へ

【いわき駅】駅名改称直前”最後の平駅”
（平成 6(1994)年 12 月　いわき市撮影）

駅名改称の論議はたびたび行われました。

いわき市が発足し「いわき」という名称の付く駅が常磐線に必要、いわき市を PR する観点からも「いわき」を付すことが必要という意見や、愛着や歴史のある駅名を改称することに反対する意見などが出ていました。

「平駅」が「いわき駅」へ改称したのは、平成 6(1994)年 12 月のことでした。翌年に全国から選手や関係者などが大勢訪れる第 50 回国民体育大会（「ふくしま国体」）の開催を控え、JR 駅に「いわき」の名称をつけることで、「いわき」をアピールする絶好の機会となることから、議論を重ね改称に至りました。

「平駅」の最終日は、記念に切符を買うたくさんの人々が訪れ、翌日の「いわき駅」誕生当日は盛大なセレモニーが行われました。

いわき駅誕生(旧・平駅)・駅名改称記念式典
（平成 6(1994)年 12 月　いわき市撮影）

記念入場券と
オレンジカード
（個人蔵）

本町通り今昔

本町通りの一町目から五町目は、古くは江戸時代からいわき地方で栄え、老舗の商店が並び賑わいをみせてきました。しかし、昭和 30 年代以降の高度経済成長期以降、車社会の移行に伴い市街地での駐車場確保が重要となりました。郊外型の商業が盛んになるなか、本町通りも同様でした。

一町目の再開発は、昭和61(1986)年に本格的に動き始め、翌年には「平一町目地区市街地再開発事業個人施行準備組織」の立ち上げとなりました。“キーテナント誘致を前提とした商業ビルの建設”案による再開発と決まり、誘致がスタートしましたが、バブル経済の崩壊となり、計画の変更を迫られました。

平成7(1995)年4月には、本町通り(一町目から駅前通りまで)のショッピングモールが開通しました。

その後、紆余曲折を経て、平成14(2002)年4月、一町目に再開発ビル「いわきT-1ビル(イワキティーワンビル)」が完成しました。17階建てで、飲食・商業店舗、ワシントンホテル、マンションなどが入り、このうち公共施設としては市生涯学習プラザ(4・5階)、市消費生活センター(4階)が開設されました。いわきT-1ビルは本町通りと掻槌小路交差点の近くにあり、平市街地の回遊性を促す一つの核となることを目指しました。

本町通りの字二町目、同字三町目を
西側から見る･ショッピングモール開通式
(平成 7(1995)年 4 月　いわき市撮影)

本町通り(令和 5(2023)年 10 月　総合図書館撮影)

いわき TI ビル外観(平成 14(2002)年 4 月　いわき市撮影)

本町通り（令和 5(2023)年 10 月　総合図書館撮影)

名前の由来

「いわきT-1(ティーワン)ビル」

平字一町目に建てられたビルで、
平の頭文字「T」と一町目の「一」を
つなげ、T-1と付けられました。

8　平安橋から、南北自由通路へ

平成 11(1999)年～平成 31(2019)年

【平安橋】いわき駅前
（平成 11(1999)年 11 月　いわき市撮影）

平成 11(1999)年 4 月、いわき市は正式に中核市へ移行。同年 7 月、「いわき市中心市街地活性化まちづくり基本計画」を策定し、いわき駅周辺の整備事業を開始しました。

橋上新駅舎改築、南北自由通路、南口ペデストリアンデッキ、バスターミナルなどの整備が進んでいきました。

平成 19(2007)年 10 月 25 日、いわき駅橋上駅舎が開業し、同日、いわき駅前再開発ビル「Ｌａｔｏｖ（ラトブ）」がオープンしました。ラトブには、いわき総合図書館(4・5 階)やいわき産業創造館(6 階)、いわき市民サービスセンター(4 階)の公共施設が開設されました。

平成 21(2009)年 6 月には橋上駅舎に付随した「いわき駅ビル」が完成し、複数の商業施設が入り、翌年 3 月には南駅前広場が完成しました。一帯は大きく様相を変えました。

平成 28(2016)年 3 月には駅北口交通広場も整備され、車や人の動線もスムーズになっていきました。

【平安橋】平安橋　平市街の高層ビルが目立つようになった(平成 8(1996)年 4 月　いわき市撮影)

【平安橋】駅改修とともに利便性の高い南北自由通路へ
（平成 27(2015)年 4 月　いわき市撮影）

名前の由来

「ラトブ・Latov」
「いわき」iwaki の頭文字の「ｉ」を「愛」と考え、愛は英語でラブ。「ラとブ」で構成された単語です。

ラは漢字の「等」として複数の市民を表し、
ブは漢字の「奉」として奉仕の意味を込め、市民に愛される施設となる事を願って名づけられました。

ラトブはラテン語の「Ratb」で
真珠を指す意味もあるそうです。

ラトブオープン・全景
（平成 19 年 10 月　いわき市撮影）

駅前大通り･左手にラトブ、
中央奥にいわき駅
（令和 5(2023)年 10 月
総合図書館撮影）

平和通り
（令和 5(2023)年 10 月
総合図書館撮影）

駅前通り　歩道
（令和 5(2023)年 10 月
総合図書館撮影）

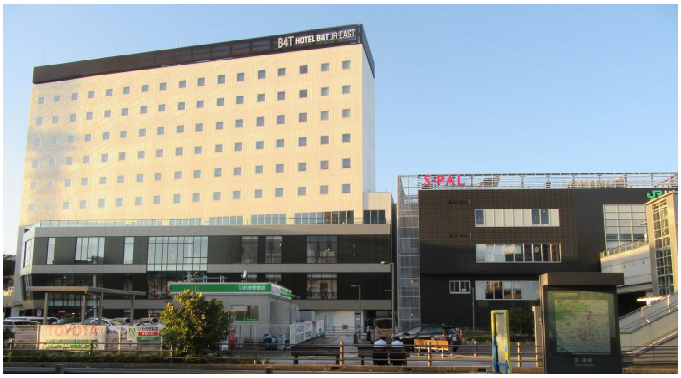
いわき駅周辺 （平成 23(2011)年 10 月 26 日　国土地理院撮影）

9　賑う駅前周辺

令和元(2019)年～令和 5(2023)年

令和 5(2023)年 1 月に、駅直結の「ホテルB4T(ビーフォーティー)いわき」と商業施設「エスパルいわき」がオープンしました。エスパルいわきの 2 階通路を「いわき平時空マップ」が色鮮やかに飾り、多くの人々が足を止めます。

いわき駅西側の国道 399 号（通称並木通り）北側区域は「いわき駅並木通り地区第一種市街地再開発事業」として現在建設が進んでいます。新たに商業施設、マンション、オフィスが入るビルの整備等により、いわき駅前周辺はますます便利に賑わう街となっていきます。



ホテル B4T いわき･エスパルいわき
（令和 5(2023)年 10 月　総合図書館撮影）

整備が進む並木通り
（令和5(2023)年 10 月　総合図書館撮影）

名前の由来

ホテル B4T いわき

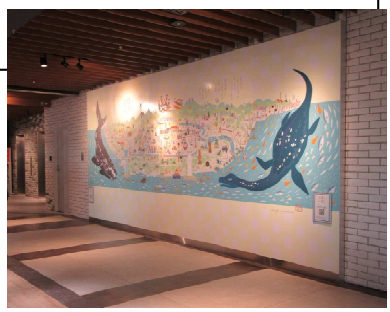
JR 東日本ホテルグループの新ブランド。
「B」は B=Bed の頭文字、「4T」は Travel･Train･Time･Trust の4つの forT を意味します。

エスパルいわき

「S-PAL」：英語で「S」(STATION=駅)と「PAL」(友達)を合わせた造語で「駅の友達」という意味です。

いわき平時空マップ

エスパルいわきに展示の6メートルの地図です。いわきの歴史や文化を地点と地点で結ぶだけでなく、過去と今を、そして未来をつなぐ時空マップです。浜通り「いわき平」の名所･伝説を体感することができます。



エスパル 2 階
いわき平時空マップ
（令和5(2023)年 10 月
総合図書館撮影）

いわき駅前周辺年表

西暦	和暦		月日	駅前周辺の出来事	いわき(日本)の出来事
1897	明治	30	2/25	【鉄道】 水戸―平が日本鐵道磐城線(現JR常磐線)として開通	
1897	明治	30	8/29	【鉄道】 日本鐵道磐城線平―久ノ浜が開通	
1898	明治	31	8/23	【鉄道】 久ノ浜―小高が開通し上野―岩沼が全通	
1914	大正	3			第一次世界大戦が始まる
1915	大正	4	7/10	【鉄道】 平郡線平―小川郷が開通	
1917	大正	6	10/10	【鉄道】 平郡線(全通して磐越東線と改称)が開通	
1918	大正	7			第一次世界大戦が終結
1921	大正	10		【駅】 駅舎やホーム、待合室や跨線橋の改築	
1923	大正	12			関東大震災(M8.1)が発生
1929	昭和	4	8/1	【駅】 平駅新駅舎が改修落成	
1932	昭和	7	4/1	【街】 平町で昭和産業大博覧会が開催	
1937	昭和	12	6/1		平市が誕生
1939	昭和	14			第二次世界大戦が始まる
1945	昭和	20		【街】 平市街地が空襲を受ける	
1945	昭和	20	9/2		第二次世界大戦が終結
1953	昭和	28	8/14	【駅】 平安橋(平駅跨線橋人道橋)が竣工	
1957	昭和	32	4/1	【駅】 平駅の平安橋口改札が開始	高度経済成長(1955～1973頃)
1966	昭和	41	10/1		いわき市誕生
1967	昭和	42	3/1		国道６号が全線開通
1971	昭和	46	4月		常磐炭鉱閉山
1973	昭和	48	7/29	【駅】 平駅ビル「ヤンヤン」オープン	第一次オイルショックが起きる
1978	昭和	53			第二次オイルショックが起きる
1979	昭和	54	6/7	【駅】 平駅北側自転車駐車場を開場	
1981	昭和	56	4/4	【街】 レンガ通りが開通	
1984	昭和	59	7/30	【街】 平大町地下道が開通	
1985	昭和	60	10/1		人口が35万人を超える
1987	昭和	62	7/1	【駅】 平駅北側に鉄北駐車場を開場	
1988	昭和	63	11月	【街】 平―東京の高速バスの運行が開始	
1991	平成	3	6/15	【街】 南レンガ通りが開通	
1992	平成	4	4/6	【街】 三町目にじゃんがら・からくり時計を設置	
1993	平成	5	10/1	【駅】 市営平鉄北駐車場が開場	
1994	平成	6	12/3	【駅】 平駅が「いわき駅」に改称	
1995	平成	7	4/2	【街】 平本町通りショッピングモールが開設	
1995	平成	7	7/1	【駅】 いわき駅西駐車業を開場	ふくしま国体を開催
1999	平成	11	4/1		中核市へ移行
2000	平成	12	3/28		国道６号線常磐バイパス全線開通
2002	平成	14	4月	【街】 一町目に再開発ビル「いわきT-1ビル」が完成	
2007	平成	19	10/25	【駅】 いわき駅橋上駅舎が開業	
2007	平成	19	10/25	【街】 いわき駅前再開発ビル「Ｌａｔｏｖ」オープン	
2010	平成	22	2/14		第1回いわきサンシャインマラソン開催
2010	平成	22	3/25	【駅】 いわき駅南口駅前広場が供用開始	
2011	平成	23	3/11		東日本大震災発生
2016	平成	28	10/1		市制施行50周年
2023	令和	5	1/15	【駅】 ホテルB4T・エスパルいわきがオープン	

＞＞＞ 参考資料・関連資料 ＜＜＜

◆『いわき駅前周辺の変遷 空中写真(昭和 20 年～平成 23 年)』
マップテクノ仙台 2011 (K/291/イ)

◆『未来へつなぐ「いわき」ものがたり いわき市制施行 50 周年記念誌』
いわき市総合政策部ふるさと発信課 いわき市 2016 (K/318.2/イ)

◆『未来への翼 いわき市制施行 30 周年記念誌』いわき市市長公室広報広聴課
いわき市 1997 (K/318.2/イ)

◆『「ラトブ」開業までのあゆみ』いわき民報社‖編集協力
いわき駅前地区市街地再開発組合 2009 (K/318.7/イ)

◆『yanyan ステーションビル HISTORY』いわき中央ステーションビル 2008 (K/672/イ)

◆『いわき発・歳月からの伝言 1』おやけこういち‖著 歴史春秋出版 2020 (K/210.1-1/オ/1)

◆『いわき発・歳月からの伝言 2』おやけこういち‖著 歴史春秋出版 2021 (K/210.1-1/オ/2)

◆『いわき発・歳月からの伝言 3』おやけこういち‖著 歴史春秋出版 2022 (K/210.1-1/オ/3)

◆『「平本町通り」の機能にみる歴史・社会変遷』おやけこういち‖著 2020 (K/210.1-1/オ)

◆『いわき市史 第3巻 近代1』いわき市史編さん委員会‖編 いわき市 1993 (K/210.1-1/イ)

◆『いわき市史 第4巻 近代2』いわき市史編さん委員会‖編 いわき市 1994 (K/210.1-1/イ)

◆『いわき市史 第11巻 [2] 』いわき市史編さん委員会‖編 いわき市 1981 (K/210.1-1/イ)

◆『絵はがきの中の「いわき」』いわき市立いわき総合図書館‖編
いわき未来づくりセンター 2009 (K/210.6-1/イ)

◆『いわきの図書館 いわき総合図書館 開館 10 周年記念企画展』
いわき市立いわき総合図書館 2017 (K/016/イ)

◆『潮流 第35報』いわき地域学會‖編 いわき地域学会 2007 (K/051/チ/35)

◆『図説いわきの歴史』小野一雄〔他〕‖著 郷土出版社 1999 (K/210.1-1/イ)

◆『懐郷無限』斎藤伊知郎‖著 田久孝翁 1978 (K/210.6-1/サ)

◆『写真が語る いわき市の100年』吉田隆治‖監修 いき出版 2019 (K/210.6-1/シ)

◆『写真集 明治大正昭和 平』斎藤伊知郎‖編 国書刊行会 1980 (K/210.6-1/タ)

◆『いわきの昭和』佐藤孝徳‖監修 いき出版 2009 (K/210.7-1/イ)

◆『いわき市の合併と都市機能の変遷』いわき未来づくりセンター いわき市 2004 (K/318.2/イ)

◆『輝くいわきの人・暮らし・まち』いわき未来づくりセンター 2006 (K/318.2/イ)

◆『新しいいわきの歴史』いわき地域学会出版部編集委員会‖編集
いわき地域学会出版部 1992 (K/210.1-1/ア)

◆『みんなで学ぼう いわきの歴史』いわき市教育文化事業団‖編
いわき市教育委員会 2023 (K/210.1-1/イ)

◆ 『空から見た私たちのまち いわき市北部』東日本航空写真普及協会‖編
マップ・システム・カンパニー 1980(K/291/ソ)

◆ 『磐越東線ものがたり』 渡辺伸二‖著 東方文化堂 2022 (K/686/ワ)

◆ 『常磐線』 山田亮‖著 フォト・パブリッシング 2017 (K/686/ヤ)

◆ 『常磐線昭和の思い出アルバム』山田亮‖著 フォト・パブリッシング 2022 (K/686/ヤ)

◆ 『常磐線』三好好三‖著 アルファベータブックス 2019 (K/686/ミ)

◆ 『想い出の国鉄・JR アルバム 第 2 巻』 フォト・パブリッシング 2021 (K/686/オ/2)

◆ 『駅名来歴事典 国鉄・JR・第三セクター編』 石野哲‖著 JTB パブリッシング 2022 (K/686/イ)

◆ 『常磐地方の鉄道』 おやけこういち‖著 1988 (K/686/オ)

★ 国土地理院ホームページ 「地図・空中写真・地理調査」
https://www.gsi.go.jp/tizu-kutyu.html

★ いわき市ホームページ「いわきの今むがし」
https://www.city.iwaki.lg.jp/www/genre/1503014401450/index.html

◎ 協力 ： 小宅幸一氏 地域歴史研究者（いわき地域学會幹事）

令和5(2023)年 10 月 27 日 発行

■編集・発行 いわき市立いわき総合図書館

令和5年度 いわき総合図書館 企画展
「いわき駅前今昔 ～空中写真で見る街並み～」

■会期 令和5(2023)年 10 月 27 日(金)－令和6(2024)年 5 月 26 日(日)
■会場 いわき総合図書館 5 階 企画展示コーナー